

◆ 土木学会 標準示方書 [山岳工法編]・同解説に追記

2006年制定 第133条 覆工コンクリートの養生に対して 2016年制定 8.2.6 覆工コンクリートの養生では青赤文字を追記

【解 説】打ち終わったコンクリートに十分な強度を発現させ、所要の耐久性、水密性等、品質 ～途中省略～ では注意が必要である。

トンネルの環境条件によっては、夏期では、坑内の湿度低下を抑制する坑内散水、冬期では温度～途中省略～ 加熱等、養生に適した坑内環境を確保する必要がある。これらの養生を確実にを行うため、型枠や脱枠後のコンクリート面をシート等で覆って封かん養生を行ったり、場合によってはその中にホース等を配置して散水したりして積極的に養生を行う例も見られる。また、コンクリート面に薬剤を散布するなどして膜を形成し、乾燥を防ぐ例も見られる。

坑口付近は、外気の影響を受けやすいため、ここでの覆工は明かり構造物と同じように養生を行うなどの配慮が必要である。

～以下省略～

- 覆工面を給水養生できる ⇒ アクアカーテン HR-110011-VE
- 側壁を給水・水分逸散抑制養生ができる ⇒ アクアシート TH-160009-A



◆ トンネル施工管理要領 (株)高速道路総合技術研究所に 5-8 覆工コンクリートの養生の項を追加

5. 施工

5-8 覆工コンクリートの養生

覆工コンクリートの養生は、給水、水分逸散防止、封緘及び膜養生等で覆工コンクリート表面を7日間湿潤状態に保持することを標準とする。なお、養生開始にあたっては、型枠を取り外した後速やかに行うものとし、型枠の取り外し後から8時間以内に実施する。

型枠脱型時期を3日程度延長する方法も標準と定めた養生方法と同等の効果が確認されている。

坑口部などの鉄筋区間では、通常のコンクリート構造物と同様に中性化速度や塩化物イオンの侵入が耐久性に大きな影響を与えることから、適切な養生を実施して耐久性を確保する必要がある。鉄筋区間における適切な養生は、「コンクリート標準示方書 施工編 第8章 養生」に準拠して設定してよい。

膜養生については、膜養生剤の種類や使用量、施工環境、施工方法等の相違により、乾燥の抑制効果が異なる。このため、使用量や施工方法等を信頼できる資料あるいは試験によって事前に確認しておく必要がある。

～以下省略～

- 最も効果の高い理想的な養生方法
⇒ 給水養生
- 給水養生を7日間実施するためには
⇒ アクアカーテン

覆工コンクリートの養生の大切さが改めて表現されました。
湿潤養生の目的に応じてアクアシートとアクアカーテン姉妹を使い分けてください。

